

全大教



島根大学職員組合



くみあいニュース

全学配布版「学長選特集」

2014年度第3号 2014年11月5日

島根大学職員組合広報部

内線 (9)2198, ダイヤルイン 0852-32-6407

E-mail union-s@sula0043.soc.shimane-u.ac.jp

<http://sula0043.soc.shimane-u.ac.jp/kumiai/kumiai.html>

「学長候補者への公開質問状」質問事項を募集いたします。

11月4日、意向調査の公示があり、次期学長候補者が明らかになりました。

今年6月に国会で「**学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律**」が採決され、8月には文部科学省から「**学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令について（通知）**」が公布されており、これを受けて現在本学では学内規則の改正が進んでいます。

今回の法改正及び学内規則改正によって学長と副学長の権限の明確化と強化、一方で教授会の役割の明文化および制限が進む公算が高く、したがって次期学長の舵取りが私たちの職場環境に与える影響はこれまでになく大きいものとなるでしょう。こうした従来以上に強力なリーダーシップを発揮し得る次期学長のもと、私たちは「改革加速期間」の最終年度となる平成27年度を経て第三期中期目標期間に取り組むこととなります。

ここで今一度、島根大学の現状に目を向け、今後私たちはどういったリーダーの下でどのように研究教育に携わっていきたいのか立ち止まって考える必要があると思います。

そこで職員組合中央執行委員会がまとめた9月17日付「島根大学の運営、将来構想などの検討のための基礎的資料」を参考にいただき（次ページ以降に掲載）、「大学運営、将来構想、財務状況」・「大学改革、GPなどの教育の在り方」・「山陰法科大学院」・「戦略的研究推進センター」・「センターの機構化」・「COC」・「地域連携」・「学部運営、教授会の位置づけ」といった各項目について皆さんの現状認識と学長候補者に質問したい内容を組合までお寄せください。「学長候補者への公開質問状」としてまとめて候補者にお渡しし、回答を求めたく思います。

募集期間：11月5日（水）～11月7日（金）

宛先：kumiai@sula0043.soc.shimane-u.ac.jp（学内専用）

あるいは学内便で「組合ボックス」まで

島根大学の運営、将来構想などの検討のための基礎的資料

島根大学職員組合中央執行委員会

島根大学はH16年に国立大学法人となり全国の多くの大学と同様、社会の要請により、改革の推進を余儀なくされています。そして、ここ数年は投資と競争の原理に基づいた業務・業績の評価が、さらに強められているといえます。第3期中期目標期間（平成28年度～）には、『各大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な「競争力」を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学への改革が加速される』とされています（これに先立ち、H25～27年が加速期間とされています）。この機会に、島根大学の最近の改革を見直し、将来の展望を考えることは重要といえます。島根大学の強みや特色について本当の意味で見直しを行い、学長の適切かつ適時のかじ取りに大いに期待するところです。また、構成員もこれに参加し、より一層、島根大学の将来のことを考えていただき、行動していただければと思います。次にその要点を整理しておきたいと思います。

◆大学運営、将来構想、財務状況など

中期目標・中期計画、ミッションの再定義など

組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標（大学ホームページから）

- ① 学長のリーダーシップのもと、機能的な業務運営を推進する。
 - ② 構成員が互いの人権を尊重し、その個性と能力が十分発揮できる環境を整備する。
 - ③ 社会的ニーズの変化等に対応するため、必要に応じて教育研究組織を、柔軟かつ機動的に編成するための見直しを行う。
 - ④ 事務処理の簡素化・迅速化を図るとともに、随時事務組織の見直しを行う。
- とされています。

文科省の当面の目標は次の通りです。

- ◇第3期には、教育研究組織や学内資源配分について恒常的に見直しを行う環境を生み出す
- ◇第3期には、国内外の優秀な人材の活用により教育研究の活性化につながる人事・給与システムに
- ◇学長がリーダーシップを発揮し、各大学の特色を一層伸長するガバナンスを構築
- ◇2020年までに、日本人海外留学者数、外国人留学生の受入数を倍増
- ◇今後10年間で世界大学ランキングトップ100に我が国の大学10校以上を目指す
- ◇今後10年で20以上の大学発新産業を創出

★ここで見えてくるもの

【何のための改革か】

大学改革が行われているなか、島根大学がどこへ向かってゆくのか「将来像」が、見えていることは重要です。社会のニーズに応じて、大学を機能別に分化させられているのが現実で、どの大学も生き残りをかけた努力を行っているように見えます。議論を重ね島根大学の「将来像」はなにかを明確にしていく必要があるでしょう。

島根大学は、大学憲章に謳われているように、『知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指す』とされています。社会の要求に見合った人材を輩出する機能だけでなく、豊かな心や深い教養をもつ社会人の育成など多様な「意味」があります。これまでの評価についても、多面的に行う必要があります。改革という言葉以外に、従来ある大学の良さ、特色について、組織の体系をより強くするとか、守り維持するといったことも重要ではないかと思えます。特に地域の大学としての研究（山陰地域研究、汽水域研究ほかなど、伝統的で特色ある研究）やその成果の地域や市民社会への普及にも、より一層力を入れていくことも重要と思えます。

【これからの事務職員と教員の協力・機能化】

日常の大学運営事務に加えて、教員と連携協力しつつ大学運営の企画立案などに積極的に参画し、学長以下の役員などを直接支えるなど、大学運営の専門職能集団としての機能を発揮することも必要かと考えます。すべての教職員に真の意味の教学アドバイザーとしての活躍を期待します。しかし一方で、新しい業務がいくつもビルド（誕生）しても、スクラップ（廃止）がないことをどうとらえるか、なくしてもよいものがないのか、業務実態の把握や見直しはどうかなど、業務の中で評価されたことなどもあわせて検討する必要があると考えます。

【学長のガバナンスとは】

学長のガバナンス強化は、大学構成員の理解、合意を得られるものであるはずですが、十分な議論がなされないまま、予算獲得のための性急な改革が進められていないか、十分なチェックが必要です。重要案件については、構成員への丁寧な説明や議論が必要です。ガバナンスとはあくまでも舵取りであって、一時の改革により将来の道を失うものではないはずと、考えます。

◆大学改革、GP（Good Practice）などの教育の在り方

山陰地域ソーシャルラーニングセンターをはじめ 15 もの GP など関連事業が進められています。中国・四国地域人材育成事業ポータル、インターンシップなど、矢継ぎ早に業務の拡大が進んでおり、これらを運営していくには、人材の確保や業務の厳選などが必要ではないでしょうか。

○大学改革の目玉とは

GP の本当の意味は、地域人材育成とグローバル人材育成を具体的にどのように進めていくべきか、このことを常に求めていくところにあるといえます。社会で必要な人材と、どうマッチするのか。そのために必要なアクティブ・ラーニングとは、などの課題に向けた取り組みや、現状の見直しはどうなるのかなど検討が必要ではないでしょうか。「加速する改革」と言われていますが、事業展開そのものが業績や成績になっているような感じもします。教育には哲学が必要といわれていますが、ゆっくりと見直しを行う時間が少なくなっているように見えます。本当の成果とは何かを立ち止まって考えたいものです。

◆山陰法科大学院

法曹に携わる人材は地域では重要であり、かつ今後もその育成は不可欠であると考えます。法曹とは司法、検察に限らず、弁護士という市民を守る役職も含まれます。弁護士は日常の様々な問題について、法的な解決を手助けするもので、社会的要請が大きいです。また、本学では伝統的に法曹研究が行われ、その成果は貴重であり傳承されるべきです。専門職大学院の役割は重く、今後も期待が大きいといえます。

◆戦略的研究推進センター

「戦略的研究推進センターは、島根大学が有する知的資産と知的創造力を活用し、地域に密着した個性的な研究及び国際的な水準の独創的な研究を集中的かつ戦略的に推進し、その成果を広く社会に還元することを目的とする」とされています。

重点研究、萌芽研究ほかの推進（研究の中核）が進められています。また、プロジェクトセンターの設置の現状では、RubbyOSS、くにびきジオパーク、疾病予知予防、ナノテク、自然災害軽減、農林水産業の六次産業化、ヒッグス・初期宇宙、水産資源管理、ウッド・デザイン、たたらナノテク、先天異常総合解析、膵がん撲滅、古代出雲、などが設置され（H26年8月現在）、お宝研究もH19年の発行から、H26年で8号を迎えることになりました。プロジェクトという言葉も定着したように見えますが、事業予算と成果の間の、プロセスが見えにくくなっているようにも思えます。

◆センターの機構化（H25年4月から）

外国語教育、キャリアー、学生支援、保健管理、国際交流、付属図書館、総合情報、ミュージアム、広島オフィスなどのセンターの運営がなされています。

○これらの機構の運営についての評価も必要といえます。

◆地域連携推進

包括協定による活動については、島根県、松江市、出雲市、大田市、雲南市ほかの町村、民間、島根県警察、ほか歴史的に継続しているものと新規のものなどがあります。

高大連携、授業などの活発化と日常化など多数の業務があります。

○講義・実験や学生指導の他、教員一人ひとりが行う業務量が膨大なものとなり、教員は地域連携の枠組の中でも各種学校等への出前授業や大学訪問の受け入れなどで多忙化してきています。実りある連携のありかたを整理する必要があるといえます。

◆COC プロジェクト、プロジェクトセンターの活動

文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択されています。大学が自治体等と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで全学的に地域再生・活性化に取り組む、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大

学の機能強化を図ることを目的とする、とされています。

事業として、1) 産業空洞化、2) 市街地空洞化、3) 地域医療危機、4) 過疎・高齢化などの課題に対して、全学部・研究科において地域基盤型教育と地域課題解決型研究を強化する取組を行う、としています。

○地域との連携がどのように行われているのか、イベントや交流を通して何を実らせようとしているのか、明確に評価する必要があります。

◆大学間交流、国際貢献

歴史的に長付き合いのある大学間交流と、今後の期待される新しい交流協定などがあります。

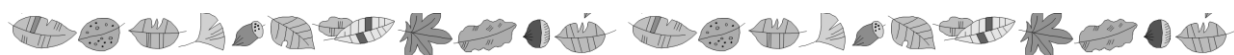
○交流協定から生まれた実績などの整理が必要で、アジアでの交流協定校のネットワーク化により、国際交流の強化が期待されるところです。また、留学生の定着ができるような、施策も必要となってきました。グローバル化をどうとらえ、大学としてどのように進め活用して、強みとするのか重要な局面にあると思われます。しかし、急速に拡大する国際交流（外交）に対応するための人的資源をどのように担保するか課題が多いところです。

◆学部運営、教授会の位置づけ

○民主的な大学運営の上では、教授会は基本的なものであることに変わりないといえます。

学術を遂行する責任が研究者にあり、その母体が教授会であることから、社会への責任や大学の意義は教授会の意思決定に基づいて行われるものと考えます。

以上



組合レク「初冬の日、奥出雲ほっこり旅！」開催

文化厚生部では、組合員の交流を深めるべく、次のようなレクレーションを企画いたしました。紅葉狩り、お蕎麦に加えて温泉&試飲も楽しめるようになっております。ぜひ、お近くの方をお誘い合わせの上、ご参加ください。一緒に初冬の奥出雲を満喫しましょう。

◆開催日：2014年11月29日（土）全学一斉停電の日です！！

◆スケジュール

9時 大学発

10時30分 鬼の舌震散策および絲原記念館見学

12時00分 絲原記念館出発

12時30分 稲田神社社務所で昼食（姫のそば ゆかり庵）
そば定食（1,250円）←オススメ

14時00分 稲田神社出発

14時20分 玉峰山荘（温泉）と道の駅奥出雲酒造（買い物と試飲）

15時40分 発

17時00分 大学着

◆参加費用：入館料（利用料）、昼食代は各自ご負担ください。

 糸原記念館（大人1,000円、小中学生300円）、昼食（1,250円）

 玉峰山荘入浴料（大人510円、子供200円） 計 1,250円～2,760円（大人）程度

◆未組合員さん、お子さん連れもOKです。

◆移動は大型バスを予定しています。

◆道中での飲食物（お酒含む）はご持参ください。

◆参加申込：11月15日（土）までに、次の項目をご記入いただき、図書館・小林（kobayashi@lib.shimane-u.ac.jp、内線2741）までお知らせください。

①氏名、②所属、③組合加入の有無、④参加人数（大人○人、子ども○人など）、

⑤蕎麦昼食（1250円）の数（希望される方のみ。他にもメニューあり）

⑥その他連絡事項（蕎麦アレルギーなどの方などはこちらにてお知らせ下さい）

女性教職員集会のおしらせ

「学長選挙の立候補者と直接会って話をしてみよう！」

主催 島大職員組合女性部

いよいよ学長選が迫ってきました。現在二人のかたが立候補されていますが、それぞれの立候補者と直接お話をしたことがある、という方は少ないのではないのでしょうか？

そこで、お二人それぞれをお招きして、お昼を食べながら島根大学の現状と未来についてどう考えるかを語り合う会を企画しました。みなさまふるってお越しください。

組合に加入されていない方も、ぜひご参加ください。男性でも希望されるかたは参加できます。詳細については追ってお知らせいたします。